

自立心や社会参画への意欲や態度を育てる道徳教育の充実 ～郷土愛の育成から社会参画へ～

座間市立南中学校 渡邊 俊介

I はじめに

座間市では平成18年の教育基本法の改正により平成21年度にこれまでの学校教育における重点主題である「豊かな心の育成」についての取り組みを見直すとともに、今後10年間を見据えた、新たな教育行政の確立をめざして、座間市教育指導計画の中核として「豊かな心を育むひまわりプラン」が策定された。「ひまわりプラン」では「こんな大人になってほしい」という「めざす大人像」として次の5つが示され、座間の教育を受けた子どもたちが大人になったときには、こうなっていて欲しいというめざす姿に向けて、豊かな心の育成を進めている。

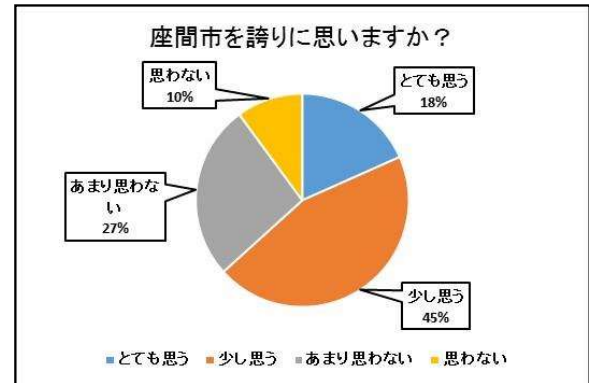
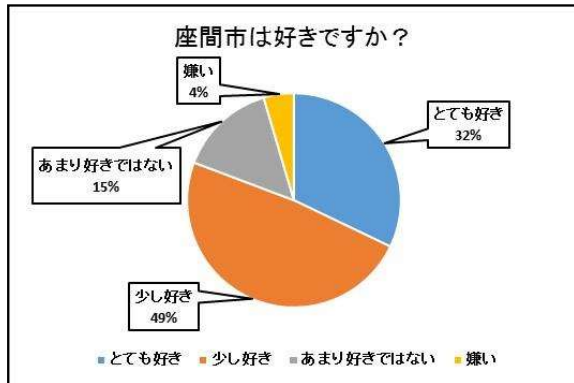
「こんな大人になってほしい」（めざす大人像）

- 自分のよさを大切にし、健康で自立した生活を送る。
- 正義を尊び、自らを律し、責任ある行動をとる。
- 目標に向かって学び続け、新たな価値を創造する。
- 温かな心で人とかかわり合い、奉仕の心で人の役に立つ。
- 郷土への愛と誇りをもち、国や社会の発展に尽くす。

教育基本法の改正では「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」と、教育の目標に「郷土愛」が新たに規定された。それを受けて作成された座間市の「豊かな心を育むひまわりプラン」においても「めざす大人像」の一つとして「郷土への愛と誇りをもち国や社会の発展に尽くす」というように「郷土愛」について示されている。また、「ひまわりプラン」をうけ、本校の学校教育目標においては「心豊かな生徒の育成」が示されており、それに基づき日々の教育活動を進めている。

生徒の実態を把握するために「座間市は好きですか?」「座間市を誇りに思えますか?」という2つの項目について事前にアンケート調査と、それぞれ回答した理由について記述式での確認を行った。

○アンケート結果



【記述内容】

- ・大凧まつりがある
- ・ひまわりが有名
- ・住んでいて安心できる
- ・水がおいしいし、みんなが暮らしやすい
- ・「ざまりん」がかわいい
- ・田舎でも都会でもなくちょうどいいから
- ・特に自慢できるところがない
- ・不便だし自然が少ない
- ・名所があまりない
- ・魅力がないし、有名なものがない
- ・これといった特徴があまりない
- ・いいと思うことや、すごいと思うことがないから
- ・誇りに思えるものがない
- ・好きではあるが、誇りには思わない

「座間市は好きですか？」という問いについては、80%以上の生徒が「とても好き」もしくは「少し好き」という回答だったのに対し、「座間市を誇りに思いますか？」という問いについては、「とても思う」「少し思う」と回答した生徒が約60%という状況だった。日頃の生徒との会話の中でも、「座間市には何もないから、大人になったら都会に住みたい」「座間のよさが分からない」といった声が多く、「大人になってもこのまま座間市に住みたい」と答える生徒はごく稀だった。その状況はアンケート調査の記述に「誇りに思えるものがない」「魅力がないし、有名なものがない」「好きではあるが、誇りには思わない」というような回答がある事からも読み取れる。

現在までの生活で座間市を想い、大切にしている気持ちは育っているという事が分かる。しかし、現在の生活に不自由が無く仲間との充実した日常の生活から、そのような回答になり、郷土を愛し、大切にすることがどのような事なのか具体的な姿がイメージできていないように感じた。それは今まで「郷土を愛する」という事がどのような事なのかを考える機会がなく、なんとなく漠然としたイメージだけを持って生活をしてきたためだと考えた。

そこで、今回の研究では「生きる力」を育む上で大切な「豊かな心」や「豊かな人間性」を育てるため「郷土愛」に着目し、研究を進める事にした。「郷土愛」について考える事を通し、郷土に対する認識を深め、自分が今ここに存在しているのは、「家族」だけでなく「社会に尽くした先人や高齢者」といった地域の方々の支えがあったという事に気づき、「先人や高齢者」のように地域社会の発展の為にどのような事ができるかを自ら考え、そして社会参画していく意欲や態度を育成することを目指し、研究テーマを設定する事とした。

II 研究内容

豊かな心を育むひまわりプラン

【めざす大人像】

- 自分のよさを大切にし、健康で自立した生活を送る。
- 正義を尊び、自らを律し、責任ある行動をとる。
- 目標に向かって学び続け、新たな価値を創造する。
- 温かな心で人とかかわり合い、奉仕の心で人の役に立つ。
- 郷土への愛と誇りをもち、国や社会の発展に尽くす。



学校教育目標

「心身共に健康で実践力のある生徒の育成」

- 知 学習意欲が旺盛で、自主的に行動できる生徒
- 徳 他を尊重し、礼儀正しい明るい生徒
- 体 丈夫で、ねばり強い生徒
- 夢 夢と希望を持ち、生き方を考える生徒

【経営方針】

- 心豊かな生徒の育成 → 座間市教育指導計画の中核
- 確かな学力の育成
- 支援教育の推進
- 教育環境の整備と充実
- 信頼に応える学校づくり

○ 研究仮説

「郷土愛」について考える授業や道徳教育をすすめる事で、生徒の内面に次の2つが育つであろうと考えた。

- ①先人への尊敬や感謝の心を育てるとともに、郷土の発展のために自分自身にできる事を考え地域社会へ積極的に参画しようとするであろう。
- ②自主的な社会参画への意欲や態度が育つであろう。

○指導上の工夫

郷土愛、先人への尊敬・感謝の心の育成

「郷土愛」について考えるため、生徒が自分たちの地域への関心をより高められるよう、これまでこの地域で社会に尽くしてきた先人についてまとめた郷土資料(地域教材)を活用し授業を行う。

自立心、社会参画への意欲や態度の育成

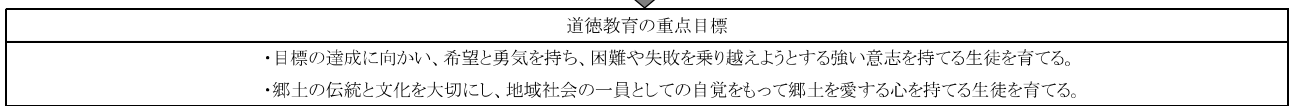
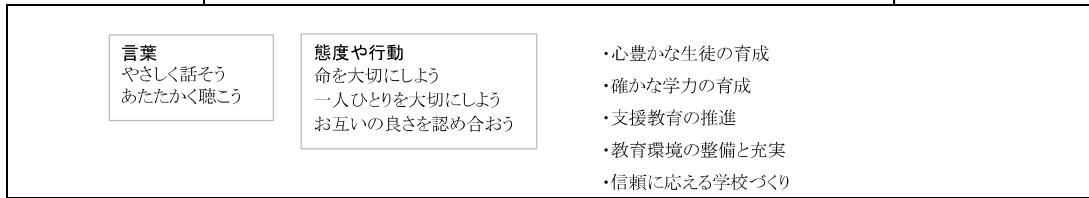
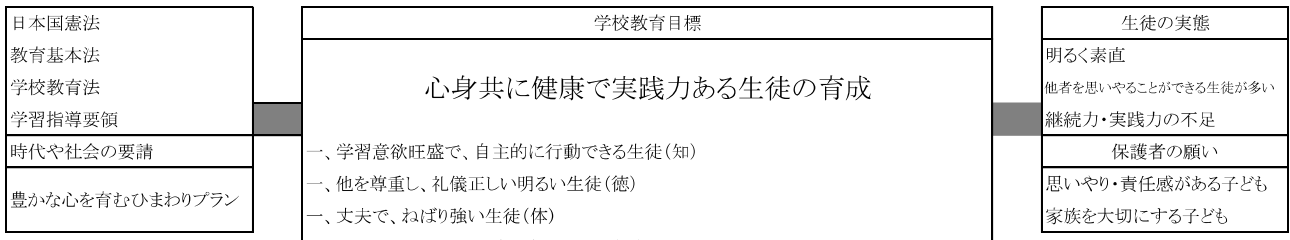
より深く考えをめぐらす事ができるようになるため、個人で「考え」、その後グループで「議論する」という授業の展

年間指導計画・別葉の活用

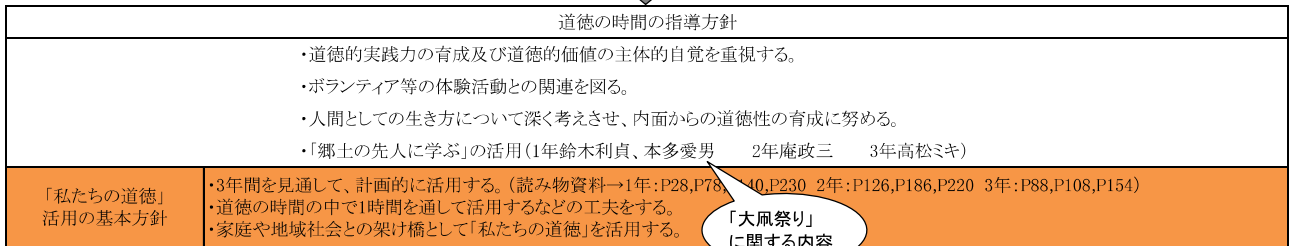


郷土愛の育成から社会参画への意欲や態度の育成

道徳教育の全体計画



学年の重点目標		
1年	2年	3年
節度と調和のある生活に努めさせ、望ましい生活習慣を身につけさせる。	中堅学年として自主的自律的に行動するとともに自己を高め、進んで役割を果たさせる。	最高学年として自律の精神を重んじ、理想を求めて、粘り強く実行させる。



各教科		特別活動	総合的な学習の時間
国語 ことばを適切に表現し正確に理解する能力を育て、伝え合う力を高めさせる。 「私たちの道徳」P62,63(3年)	音楽 音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養う。 「私たちの道徳」P198,199(2年)	学級活動 一人ひとりが自己の役割を認識し、協力し合う態度を育てる。	○自らの課題を見つけ、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。 ○学び方やものの考え方を身につけ、問題解決や探究活動を通して、自己の生き方を考えることができるようになる。 課題をつかむための資料や、課題の追求を深めたり広げたりするための資料などとして「私たちの道徳」を柔軟に活用できるようにする。 →主に関連するページ1年:P226～P229 2年:P172～175 3年:P32～35
社会 国際社会に生きる民主的、平和的な社会の形成者としての資質を育てる。 「私たちの道徳」P160,161(3年)	美術 美術の創造活動の喜びを味わい豊かな感性や情操を育てる。 「私たちの道徳」P206～209(2年)	進路指導 自己の生き方を見つめ、自己の目標を定めて努力しようとする能力・態度を育てる。	
数学 事象を数理的に考察する能力を育て高める。 「私たちの道徳」P206,207(1年)	保健体育 心と体を一体として健康の保持増進をはかり明るく豊かな生活を営む態度を育てる。 「私たちの道徳」P66～69(1年)	生徒会活動 活動の企画、実施を行う中で、自主・自立の精神及びボランティアの精神を養う。	
理科 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を育てる。 「私たちの道徳」P96～101(3年)	技術・家庭 進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。 「私たちの道徳」P180,181(2年)	学校行事 学校生活に秩序と変化を与え、集団の所属感を深めさせる。 様々な体験活動等の特質を踏まえ「私たちの道徳」を活動内容に関連させたり、事前・事後指導に活用したりする。 →主に関連するページ1年:P166～169 2年:P16～19 3年:60,61	

家庭・地域社会との連携

- ・学校公開日や授業参観および保護者会をはじめ、学校便りや道徳通信を通じて道徳教育の推進を図る。
- ・家庭との連携を密にすることによって道徳的実践力の強化を図る。
- ・行事や体験的活動などを通し地域社会との交流を図り、地域社会の一員としての自覚を高める。

- ・生徒会を中心に「大風祭り」
- ・1年「ストリートガーデン」
- ・2年「職場体験」

道徳教育への共通理解を深め、相互連携を図るために、各種通信の発行や「私たちの道徳」の家庭での活用を促す。

Ⅲ 授業展開

道徳学習指導案

座間市立南中学校

指導者 渡邊 俊介

1 主 題 郷土への思い

【内容項目】 4－（8）郷土愛、先人への尊敬・感謝、郷土の発展

2 資料名 「【鈴木 利貞】 心豊かな教育を目指した幼年会」

（出典 座間市教育委員会 教育研究所発行「郷土の先人に学ぶ」）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値観

生徒にとって、地域社会は家庭や学校とともに大切な生活の場である。郷土によってはぐくまれてきた文化や伝統に触れ、体験する事を通して、そこに住む事の喜びが生まれ、地域社会の一員としての自覚がもてるようになり、郷土を大切に作る心や態度もはぐくまれる。また、このような郷土をつくりあげてきた人々への尊敬の念や感謝の気持ちも生まれてくる。郷土を愛し大切にするという事は、長い間にわたって、今、自分たちが生活してきた郷土をつくりあげてきた伝統や文化、先人や高齢者たちの努力に思いを寄せ、その事に感謝の心を持ち、これを今後の人々のためにより発展させて引き継いでいく事である。

ここでは先人への感謝と尊敬の心を育てるだけでなく、地域のために何ができるのかを考えさせる事により、郷土を愛する心も育てていきたい。

（2）ねらいとする価値観に基づく生徒観

中学校に入学すると部活動やその他の場面で生活の場が自分たちの地域からそれ以外の地域へと広がってくる。そのため自分が生まれ育った地域に対してもそれぞれの考えが芽生えてくる。授業の前に生徒の実態を把握するために、「座間市は好きですか？」「座間市を誇りに思いますか？」という2つの項目についてのアンケート調査と、それぞれ回答した理由について記述式での確認を行った。

「座間市は好きですか？」という問いに対し、80%以上の生徒が「とても好き」もしくは「少し好き」という回答だったのに対し、「座間市を誇りに思いますか？」という問いに対しては、「とても思う」「少し思う」と回答した生徒が約60%という状況だった。日頃、生徒との会話の中でも、「座間市には何も無いから、大人になったら都会に住みたい」「座間のよさが分からない」といった声が多くあり、「大人になってもこのまま座間市に住みたい」と答える生徒はごく稀だった。

座間市で取り組んでいる「豊かな心を育むひまわりプラン」の中で示されている「こんな大人に なってほしい」という「めざす大人像」の一つである「郷土への愛と誇りをもち、国や社会の発展に尽くす」という「大人像」とは異なる結果となってしまっているのが生徒の実態である。

そこで今回の授業を通し、生徒が生まれ育った地域に今まで以上に興味を持つだけでなく、その 地域が現在に至るまでの成り立ちや多くの先人たちの様々な取り組みがあった事に気づかせ、自 分の生まれ育った地域に誇りを持つ事ができるような授業を展開していきたい。また、これから未来を生きる生徒たちが、地域の発展のために自分たちに何ができるのかを考える事から、郷土だけでなくいずれは国の発展にも目を向けられるきっかけとなる事を期待したい。

(3) 教材観

今回活用する資料は座間市教育委員会が発行する「郷土の先人に学ぶ」に収録されている作品 の一つである。郷土への思いを深め、自分たちが生まれ育った地域がどのように成り立っているのかを知るためには他にない絶好の教材となる。資料では自分たちと同じ年代かそれよりも若い人たちが、「自分たちのことは自分たちの手で」という思いから地域をよりよくするために必要な事を考え、活動している様子が描かれている。授業ではそのときの若者の活動も郷土を愛する心の現れの一つだと気づかせ、また、そうしたすばらしい活動があり、今の地域が成り立っている事に対し感謝と尊敬の心も育てていきたい。

4 本時のねらい

郷土を愛する心と地域の発展のために活動した先人への感謝と尊敬の心を育てる。

6 授業の流れ

【1時間目】

	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・座間市について確認 ○座間市のいいところはどんなところですか？ ・「幼年会」について知っている人を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・IT機器（パワーポイント）の活用。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼年会」を創った鈴木利貞さんを紹介。 ・鈴木利貞さんと「幼年会」について確認する。 ○「幼年会」の活動は、鈴木利貞さんのどのような思いや願いを大切に活動していましたか？ ・「豊かな心を育むひまわりプラン」について確認する。 ○「ひまわりプラン」の中で作成された「ごまっ子 八つの誓い」は「幼年会」のどのような取り組みが元になって作られましたか？ ◎「こんな大人になってほしい」（めざす大人像）の中で自分にあてはまる項目やこれからめざそうと思う項目はありますか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解を深められるようワークシートを活用する。 ・生徒が自分たちと同じか、それよりも若い子どもたちの活動だったと気づかせる。 ・自分たちの手でよりよいまちづくりをめざした「幼年会」の活動がやがては「民主主義」や「地方自治」へと繋がる事に触れられると良い。 ・戦後の座間町としての独立にも鈴木利貞さんの思いや願いが影響している事に着目させる。 ・「こんな大人になってほしい」（めざす大人像）を一つずつ確認し、生徒に自分自身と向き合わせる。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・「めざす大人像」の「郷土への愛と誇りをもち、国や社会の発展に尽くす」という点が「幼年会」の活動を受け継いでいる事を確認し、次回の学習内容を説明する。

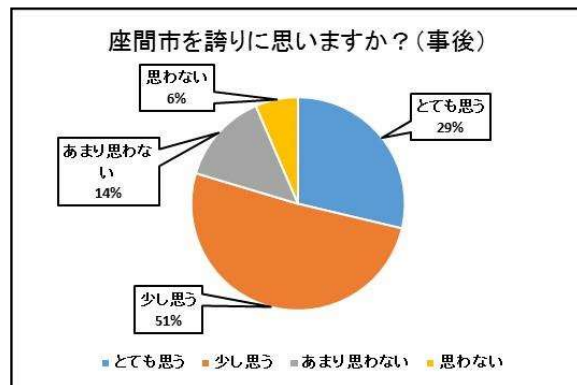
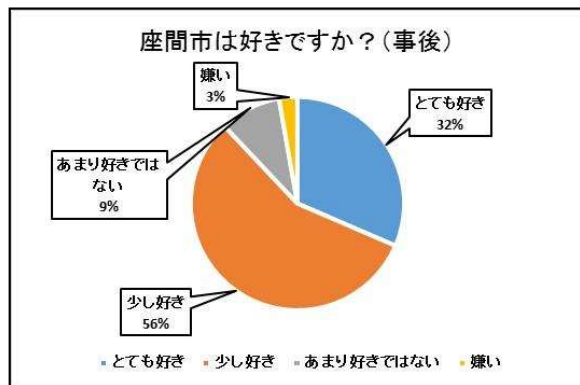
【2時間目】

	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の復習 めざす大人像について発表させる。 ・ 前回、学んだ鈴木利貞さんと「幼年会」の復習。 ○「幼年会」はどのような活動を行っていましたか？ ○「幼年会」の活動は、鈴木利貞さんのどのような思いや願いを大切にして活動していましたか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「めざす大人像」の「郷土への愛と誇りをもち、国や社会の発展に尽くす」という点にも触れ、本時の学習内容を伝える。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鈴木利貞さんの思いを受けて、自分たちの地域を良くするために自分たちできる事を考える。 ○座間市をより良くするために自分たちにどのような活動ができますか？ ・ 郷土を愛するという事がどのような事か考える。 ○鈴木利貞さんはなぜ「自分たちの村は自分たちで良くしていこう」と願ったのでしょうか？ ◎郷土を愛するとはどのような事でしょうか？ (個人 → グループで話し合い) →地域の行事に参加する 地域をきれいにする など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「幼年会」では今日の学習と同じ活動を子どもたちが行っていたことに気づかせる。 ・ 幼年会の活動が郷土を愛する心の現れである事に気づかせる。 ・ 郷土を愛する心を自分たちの活動でも現せる事に気づかせる。
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふり返り 授業で感じた事や考えた事をワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土を愛する事とはどのような事なのか考えながらふり返るよう促す。

IV 研究成果と今後の課題

授業実践を終え、授業前に行ったアンケートをもう一度行い、授業前と授業後の生徒の心の変化を確認した。また、前回のアンケートから回答が変わった生徒についてはその理由を記述式で確認した。

○アンケート結果



【記述内容】(前回のアンケートから回答が変わった理由)

「座間市は好きですか？」について

- 座間市の魅力を少しでも知ることができた。
- 座間市にすごい歴史があるから。
- いろいろな人がこの座間を作ってくれたことを知ったら好きになった。
- 座間を変えるために活動してくれる人がいたから今があると思ったから。
- 有名ではないが昔から伝わる行事を今でもしっかり受け継いでいるから。
- 「ひまわり」のような座間だけの文化がいい。

「座間市を誇りに思いますか？」について

- 座間市のために尽くしてくれた人がいることやそのおかげで今の座間市があること分かった。
- 座間市の先人にとっても立派な人がいたことが分かったし、その人がいたことで今の座間市があると思うから。
- 自分の知らない部分で沢山の苦労があったけど今の座間があることが分かった。
- 今回の道徳で昔の座間の話を聞いて、「良いな、誇りだな」と思った。
- 座間市には偉大な人がたくさんいるから。
- 有名な物もあったし、これまでのことを学んで良いところなどを知れたから。
- 「大風祭り」や「ひまわり祭り」だけじゃなくて、地域の人との関わりが深いから。
- すごい人がいて、この座間のために尽くす人が作りあげた市だから。
- 座間市にもいろいろな歴史があることを知って、その歴史があるからこそ座間市がこんなに良くなったんだなと思った。
- 座間市にどんな伝統があったかが分かったから。
- 祭りなど伝統を大切にしている。

「座間市が好きですか?」「座間市を誇りに思いますか?」と、どちらのアンケートにおいても「座間市」に対して否定的な考えの生徒の割合が減少し、肯定的な考えへと変化している事が分かった。前回のアンケートの回答から自分の気持ちが変わった生徒に対してその理由を確認した記述では、道徳の学習を通し、郷土についてより深い理解ができ、今までとは違った考えや気持ちが芽生えてきている事が分かり、そのことから郷土愛が育ってきていると言えるだろう。

授業で生徒が自分自身の考えをまとめ、その考えをグループで話し合う事(考え、議論すること)や生徒が記入したワークシートから、多くの生徒が「郷土を愛する」という事について、しっかりと考えられていた事を確認できた。特にグループでの話し合いでは個人の一面的で単調な考えが、仲間の意見を聞き、それぞれ広がりを見せ深化していく様子がよく分かった。さらに、グループでの話し合いをもとに、現在の自分の生活を振り返り、今後の生活に向けての実践意欲を持つ事ができた生徒も見られた。

ここでは生徒のワークシートの確認を次の観点で行った。

- ① 本時のねらいを達成する事ができたと判断できたもの
(内容項目に関するもの)
- ② 新学習指導要領の実施に向けて、多面的・多角的に考えられていると判断できたもの
- ③ 研究テーマに関するもの
(自立心や社会参画への意欲や態度が育ったと判断できたもの)

○「郷土を愛する」とはどのような事でしょうか?

・自分の生まれ育った町をほこりに思い、大切にしようとする事。

↓

②

- ・地域のためにボランティアなどをする。(働く)
- ・だめなところを助け合って改善する。
- ・他の地域の人に自分の地域の良さを伝える。
- ・座間の伝統を守る。 ・座間市のことをよく知る。

③

自分からその町や市を守ったり大切にしている取り組みやボランティア活動に積極的に参加する。

自分の市をほこりに思う。 ②③

④ 自分たちの村を守ったりキレイにたもたつ活動に積極的に参加する

②

- ・座間の伝統を守る。
- ・座間をよく知る。 ・他の

その郷土を良くするための事を考えたり、大切にしたり、
郷土の事がうねに頭にあるぐらい 大好きという気持ちがある
こと。

② 自分たちの村を守り、きれいに保ち、活動に積極的に参加する。

②③

自分が生まれ育った土地を誇りに思い、座間の伝統を守る、
良さを良く知る。

① (その土地の発展のために、自分が出来ることを行い
良くなっていくと考え、行動すること。

→ ボランティアに参加する
他の市の人に自分の市の良さを広めていく。

②③

○生徒の感想

小だんはただ住んでいるだけと思っている座間市だけど、よく
するための活動も考えたらたくさんあるので、考えたことを生かして
実行しようと思います。 ③

自分達の市や町を良くしていくことは、とてもいいことだと
改めてそう考えた。

① 自分のすむ所にこんなにすごい人がいるのはおとろきたった。
これからはボランティアに積極的に参加しようと思った。

③ 座間の伝統などをよく知って、自分も参加できる物は積極的に
していかうと思った。

① この伝統を作ってくれた人に感謝する気持ちになった。

前回や今回の授業で、今までの人達のおかげで今の座間があるときき

① として郷土を愛おしい事も学んだので、美化デやあいさつを実行していきたい

③

今は、座間について良く知らないし、伝統の行事にもあまり参加していないから、けい板などにチラシが貼ってあるのを見たら、まずは参加してみたいと思う気持ちを持って誇りに思いたい。^③

自分だけじゃなく、みんなでもかかえて、よりよい座間市にしていきたい。と思った。
② 座間には誇りをもてることか一番のことじゃないということもわかった。

② 郷土を愛することは、いろいろな方法があることに気が付いた。

② 人それぞれ座間市を愛する気持ち、思っていることがわかった。
これからは、座間をより好きになるために考えていきたいです。

② 座間を愛したり、誇りに思うことは、そう簡単につくれるものではないと感じた。座間の伝統は、いろいろな人の支えがあったから今も守れていると思っ
① た。

② 「郷土を愛する」というのは、ただ郷土が好きなのだけではなしに、いろいろなことが考えられた。また、^③鈴木さんのまうにははなれなくして、少しづつ活動はできるんだと思った。

今回の授業では指導の工夫で「郷土愛、先人への尊敬・感謝、郷土の発展」という内容項目を考え、郷土資料（地域教材）を活用した事により、地域の事をより深く学び、今までとは違った視点で地域の姿を捉える事ができていた生徒が多かった

ように感じる。特に今回は「郷土の先人」が行った事が題材になっているため、地域社会の中で自分自身がこれからどのような活動をする必要があるのかをしっかりと考える事ができていたのではないだろうか。さらに、今回の授業では「郷土愛」について考える事がねらいであったが、学校教育目標にある生徒の「自主性」を育てる事や今後の「生き方」を考える事へ授業が発展していた。

また、「考え、議論する道徳」の授業の展開では、特に自分自身の生活を振り返るような発問をしたわけではないが、「自分自身の考えをまとめる(=考え)」→「グループで話し合う(=議論する)」→「現在の自分の生活を振り返る」といった流れで生徒の思考が変化していた。深い学びができた結果として、道徳科の目標にあるような「自己をみつめること」が自然と達成できているように感じた。さらに、「考え・議論する道徳」の実践により、他の人の意見を聞く事から、多面的・多角的に考える事はほとんどの生徒が行えていた。しかし、ワークシートの記入からも分かるように、「郷土を愛する」ということについて、自分たちで考え、出した結論を実践していく上で、その「困難」や「面倒くさいと感じる心」などについては考えの深まりが見られなかった。それらは、生徒の心を揺さぶる発問ができると、より考えの深まりが見られたように感じた。教師が発問を工夫する事により、「考え・議論する道徳」の授業がさらに発展し、考えを深められるのではないかと考える。教師が発問を工夫し、意図して行う事が、今後さらに大切になってくるであろう。

さらに、今回は「郷土の先人に学ぶ」といった、もともと道徳の授業のために作成されたわけではない読み物資料を活用して授業を行った。その中で読み物資料を読み解くために多くの時間を要する事になり、2時間をかけての授業となった。道徳の副読本にもかなり長編の読み物資料がある。そうした資料を活用する上で基本的には1時間扱いとなる道徳の授業展開を充実させるために、資料を読む事を宿題にするなどの工夫も改善策のひとつとして考えていく必要がある。しかし、宿題にした場合も宿題を行わなかった生徒を授業にどのように参加させるかといった新たな課題が生まれてくるため、しっかり検討しなければならない。

最後に、今回の研究では「道徳教育の充実」がテーマとなっていた。1年間を通して本校の道徳教育をすすめるにあたり、大きな課題となったのが「別葉」の活用だ。決められた様式がないだけに、学校ごとに、どのように道徳教育をすすめて行くのかを示すことになる。それぞれの教科だけでなく年間の学校行事、そして本校においては地域の行事との関連をもたせて、それらを道徳の授業でいかに「補充・深化・統合」していくかを考えなければならない。そうした課題から今年度にかけて「道徳年間指導計画」と「別葉」の様式を大きく変更し、様々な関連を確認しながら道徳教育が進められるよう工夫をした。「年間計画」と「別葉」を1枚のシートにまとめたことにより、本校の特徴である地域の行事等との関連をはかりやすくなった。次年度に向けては年間の学校行事を含めた様々な行事との関連も考え、道徳の授業の時期や各教科との関連をさらに検討していく必要がある。